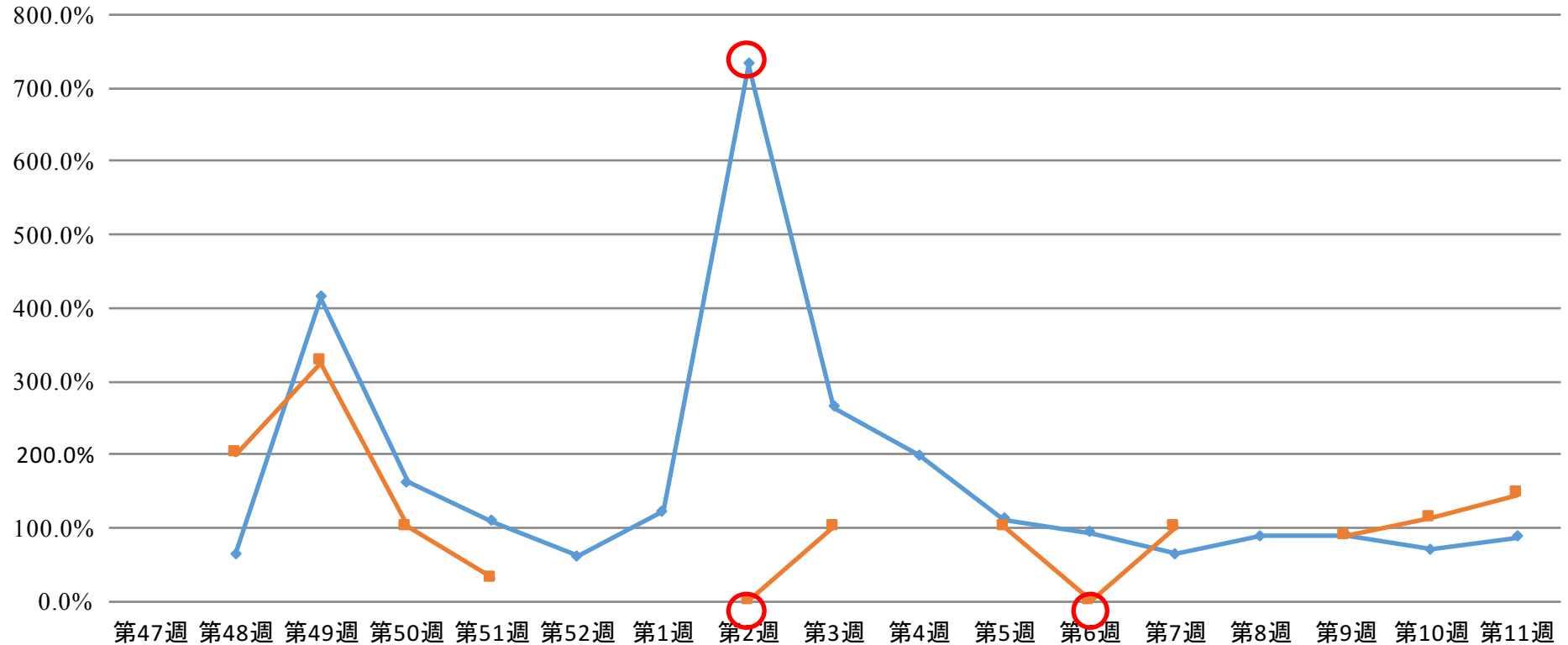


週ごとの対前週発生者の変化率 (当該週発生者数 ÷ 前週発生者数)



↑ ↑
加湿開始

⇔ 冬休み

大阪府 11名 7名
幼稚園 2名 4名

大阪府 38名 278名 736名
幼稚園 1名 0名 0名 3名 3名 0名 0名

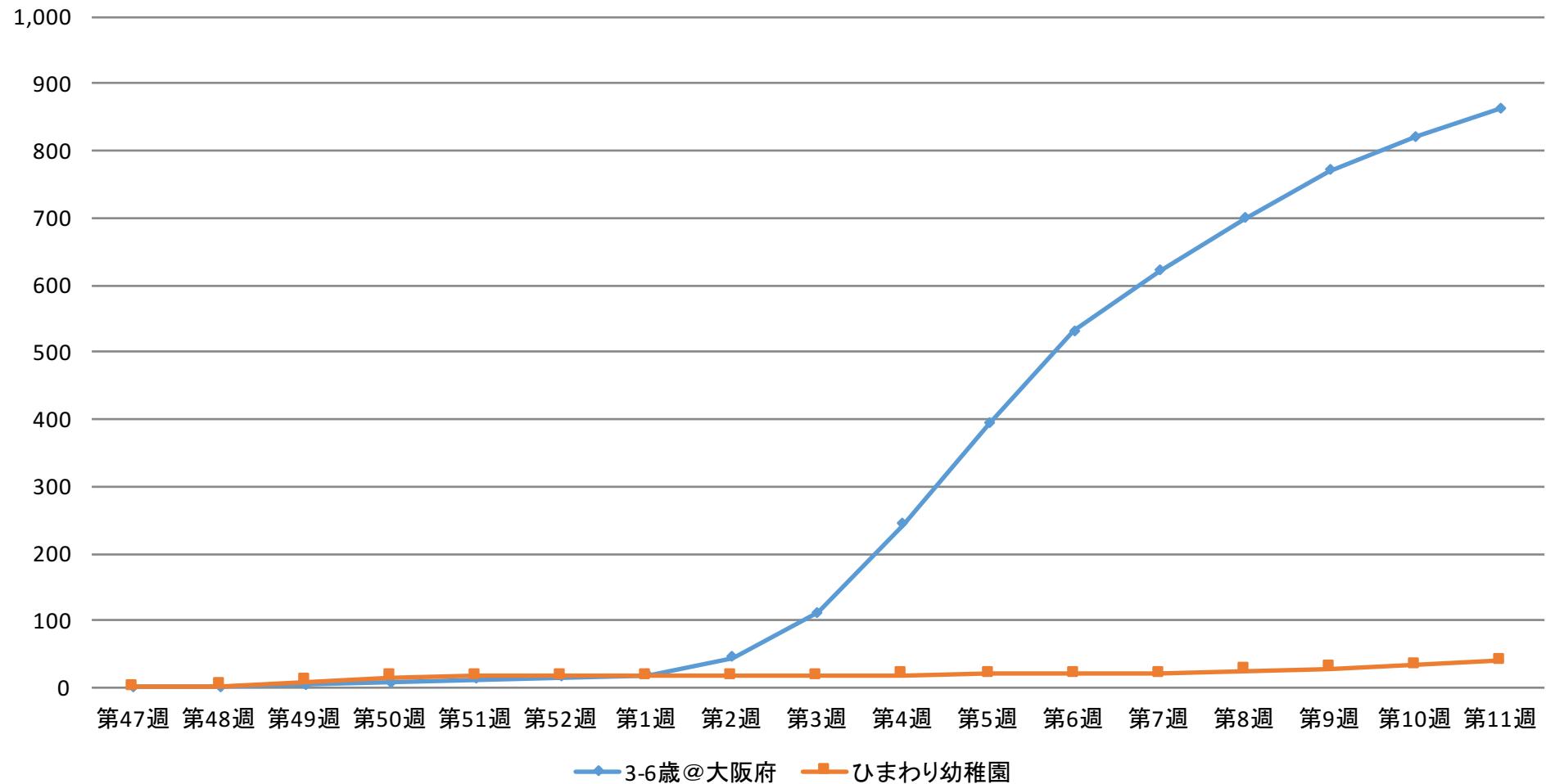
大阪市のひまわり幼稚園(2012年度の総園児数277名)ではインフルエンザ感染予防として、セラミック水を入れた超音波加湿器を全教室, 図書室, 職員室の計15室に設置しました。

図は大阪府感染症情報センターHP資料より入手可能なブロック別年齢別発生状況のデータの内, 同年代の3歳~5歳の子供のインフルエンザ発生数とひまわり幼稚園の発生データを比較したものです。

セラミック水加湿器を導入する直前の2012年第47週を基準として, 図の縦軸は当該週の発生者数を前週の発生者数で割った変化率を%値で表しています。すなわち週間毎の発生数の増減変化を示しています。

大阪府では2013年第1週の発生者数が38名から第2週の736名と7倍以上に増えています。一方, 幼稚園では冬休みのため第1週の発生者数は不明ですが, 第2週の発生者数が0名のため対前週発生者の変化率は0%となります。データとしては不十分なところがありますが, 傾向として急激な発生者増が抑制されていることが分かります。

2012年第47週を基準としたインフルエンザ発生数(累積)の推移



図は大阪府感染症情報センターHP資料より入手可能なブロック別年齢別発生状況のデータの内、同年代の3歳～5歳の子供のインフルエンザ発生数とひまわり幼稚園の発生データを比較したものです。

2012年第47週を基準として、この週から当該週までに発生した週間患者数の累積数を表しています。

インフルエンザの感染拡大は周りに患者数が多いければ、一気に広まってしまおうという傾向にあります。したがって大阪府のデータは年明けの流行と共に一気に患者数が増えていることがわかります(図中の青線プロット)。それに対して、ひまわり幼稚園では患者が発生しても、それが周りに移りにくく急激な広がりが見られないことがわかります(図中の赤線プロット)。以上から、加湿器を用いたセラミック水の空間噴霧は園児間での感染減少に効果が認められます。